

— 明治安田生命 「家計」に関するアンケート調査を実施 —
コロナ禍により約4割が年収ダウンを実感！貯蓄額は3年ぶりに減少！
今年も“巣ごもりGW”に！？GWの予算は2年連続減少！
コロナ収束後、まずやりたいことは「国内旅行」「外食」！

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、「家計」に関するアンケート調査を実施しましたのでご報告します。

1. 昨年同時期と比べたコロナ禍の家計への影響について（詳細は5～10ページ参照）

(1) 「年収」について

■約4割の人が年収ダウンを実感！

- ・年収がダウンしたと回答した人が17.7%、将来ダウンする（と感じる）と回答した人が19.6%と、合わせて約4割（37.3%）の人が年収ダウンを実感！
- ・職業別では、既に年収がダウンしたと回答した人は、「自営業・自由業」（32.3%）、「パート・アルバイト」（24.5%）が上位に。一方で将来ダウンする（と感じる）と回答した人は「会社役員・経営者」（29.0%）、「会社員」（22.7%）が上位に入り、職業によって影響を受けるスピードに差が！

(2) 「出費」について

■“外出自粛”や“テレワーク”の影響を受けて家計の出費の内訳に変化！

- ・在宅時間が増えたことで水道・光熱費、食費（外食代除く）などの費用が増加！
- 一方で、外出機会が減ったことで外食代・被服費・交通費・美容費などの費用が減少！
- ・特に、外食代の支出が減ったと回答した人は約7割（69.1%）！
- ・出費項目ごとに増減の違いはあるものの、世帯全体では、支出が「増えた」または「減った」と答えた人がともに約2割、「変わらない」と答えた人が約6割と支出全体に大きな変動は見られず！

(3) 「貯蓄」について

■年々増加傾向にあった貯蓄額が3年ぶりに減少！減少額は173万円！

- ・今年の貯蓄額は1,339万円となり、昨年の1,512万円から173万円減少！
- ・職業別では、貯蓄が減ったと回答した人は、年収ダウンの影響が大きかった「自営業・自由業」（36.8%）、「パート・アルバイト」（28.4%）が上位を占める結果に！

(4) 「おこづかい」について

■コロナ禍が夫のおこづかいを直撃！？2年連続で減少！

- ・コロナ禍の影響で昨年大打撃をうけた夫のおこづかいが2年連続で減少！
- ・年収ダウンや外食機会の減少は、まずは夫のおこづかいに響く！？

明治安田総合研究所フェロー チーフエコノミスト小玉 祐一が
 コロナ禍の家計への影響について分析！

2. GWについて（詳細は11～12ページ参照）

■今年も“巣ごもりGW”に！？GWの予算は2年連続減少！

- ・GWの過ごし方は、「自宅で過ごす」（64.1％）と「未定」（20.1％）の合計が昨年に引き続き8割以上に！今年も“巣ごもりGW”に！？
- ・加えて、年収ダウンの影響もあってか、今年のGWの予算は、緊急事態宣言中の昨年よりも「減らす」と答えた人が約3割（27.5％）！
- ・一昨年47,249円、昨年23,010円、今年20,463円と、10連休だった一昨年の半分以上となった昨年から、今年はさらに約2,500円減少！

3. コロナ収束後にやりたいことについて（詳細は13ページ参照）

■まずやりたいことは「国内旅行」「外食」！

- ・コロナ収束後に何をやりたいか聞いてみたところ、年代・性別を問わず、「国内旅行」（72.5％）、「外食」（48.1％）が上位！
- ・コロナ禍で我慢してきた旅行や知人・友人との会食などを多くの人が待ち望んでいる結果に！

4. キャッシュレス決済の浸透について（詳細は14～16ページ参照）

■コロナ禍でキャッシュレス決済が拡大！「ネットショッピングにて必要」と感じた人が昨年と比べて約2.5倍！

- ・最も多く利用する決済手段について、約4人に3人が「キャッシュレス（クレジットカード・電子マネー等）」と回答！一昨年は52.5％、昨年は69.7％、今年は73.3％と年々増加傾向に！
- ・「キャッシュレス」を選ぶ理由について、「ネットショッピングにて必要なため」と答えた人（29.2％）が昨年（11.3％）の約2.5倍、「キャッシュレス決済に対応できる店舗が増えたため」と答えた人（25.8％）が昨年（5.3％）の約5倍に！
- ・ネットショッピングやデリバリーサービス等の“巣ごもり”消費の拡大が「キャッシュレス」利用の拡大につながった！？

明治安田総合研究所フェロー チーフエコノミスト小玉 祐一が
キャッシュレス決済の浸透について分析！

対象者の属性

1. 調査対象

20～79歳の既婚男女

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2021年3月29日(月)～3月31日(水)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1,620人

6. 回答者の内訳

(単位：人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	135	135	135	135	135	135	810
女性	135	135	135	135	135	135	810
計	270	270	270	270	270	270	1,620

【 目 次 】

<u>1. 昨年同時期と比べたコロナ禍の家計への影響について</u>	…… 5 ～ 10 ページ
(1) 「年収」について	…… 5 ページ
(2) 「出費」について	…… 6 ページ
(3) 「貯蓄」について	…… 7 ～ 8 ページ
(4) 「おこづかい」について	…… 9 ～ 10 ページ
<u>2. GWについて</u>	…… 11 ～ 12 ページ
<u>3. コロナ収束後にやりたいことについて</u>	…… 13 ページ
<u>4. キャッシュレス決済の浸透について</u>	…… 14 ～ 16 ページ

1. 昨年同時期と比べたコロナ禍の家計への影響について

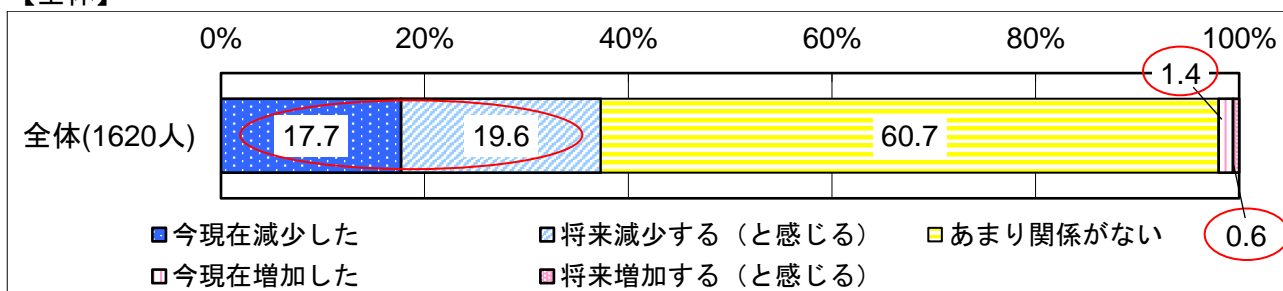
(1)「年収」について

**約4割の人が年収ダウンを実感！
職業によって影響を受けるスピードに差が！**

- 新型コロナウイルスの影響により、年収にどのような影響があるか聞いてみました。
- 「今現在減少した」、「将来減少する（と感じる）」と答えた人は、合わせて全体の約4割（37.3%）にのぼることがわかりました。
- 一方で、「今現在増加した」、「将来増加する（と感じる）」と答えた人は、合わせて全体のわずか2.0%でした。
- 職業別では、既に年収がダウンしたと回答した人は、「自営業・自由業」（32.3%）、「パート・アルバイト」（24.5%）が上位に、一方で将来ダウンする（と感じる）と回答した人は「会社役員・経営者」（29.0%）、「会社員」（22.7%）が上位を占めました。
- 職業によって、年収に影響を受けるスピードに差がつく結果となりました。

Q. コロナ禍により年収に影響はありますか

【全体】



【職業別】

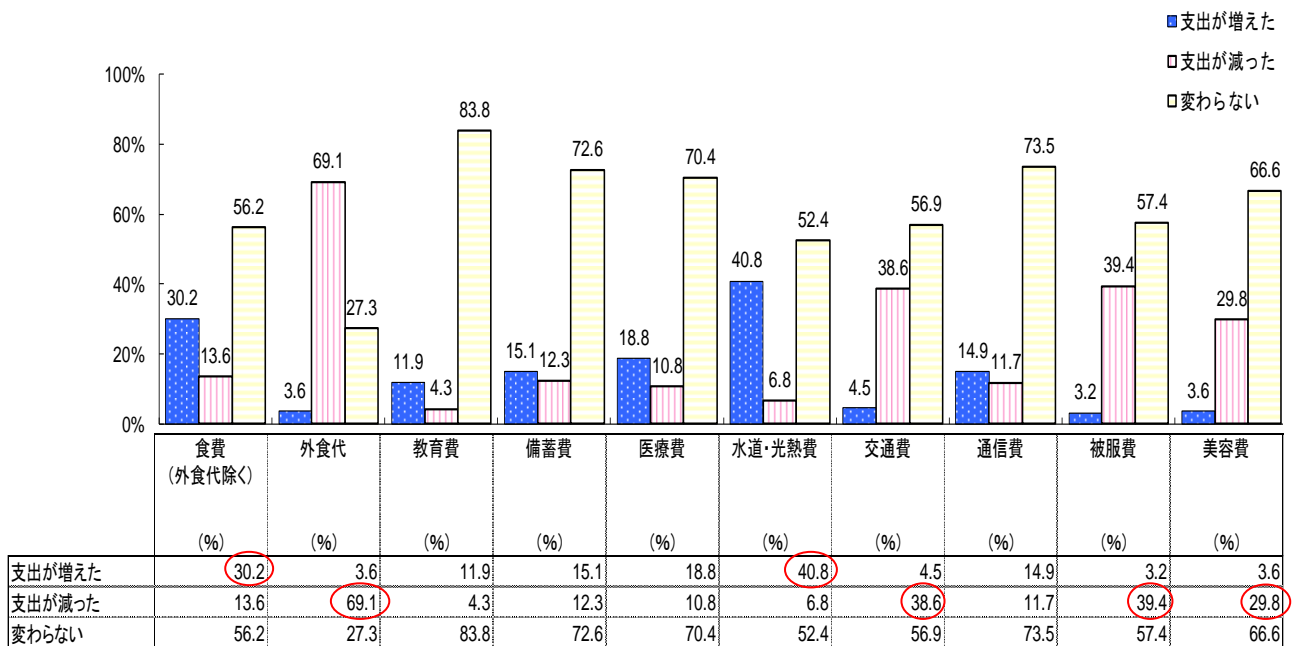
	今現在減少した (%)	将来減少する（と感じる） (%)	あまり関係がない (%)	今現在増加した (%)	将来増加する（と感じる） (%)
会社員	19.7	22.7	54.4	2.2	1.0
会社役員・経営者	19.4	29.0	45.2	3.2	3.2
公務員	5.9	17.6	74.5	-	2.0
自営業・自由業	32.3	16.7	50.0	1.0	-
パート・アルバイト	24.5	15.7	59.1	-	0.6
専業主婦(主夫)	14.6	19.4	64.8	1.0	0.2
無職	8.7	12.6	78.1	0.5	-
その他	20.0	40.0	33.3	6.7	-

(2)「出費」について

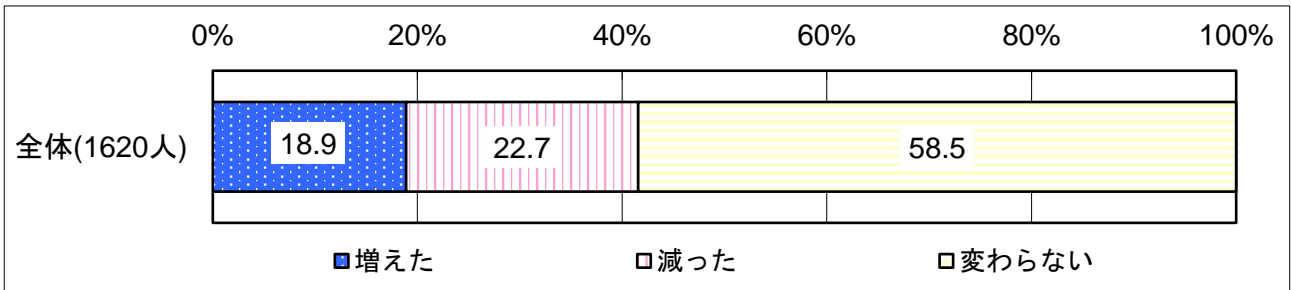
“外出自粛”や“テレワーク”の影響を受けて家計の出費の内訳に変化！
ただし、支出全体には大きな変動は見られず！

- 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、日々生活するうえでの様々な支出に対し、昨年同時期と比べての増減を聞いてみました。
- 在宅時間が増えたことで水道・光熱費、食費（外食代除く）などの費用が増加しました。一方で、外出機会が減ったことで外食代・交通費・被服費・美容費などの費用が減少しました。
- 特に、外食代の支出が減ったと回答した人は約7割（69.1%）となりました。
- 出費項目ごとに増減の違いはあるものの、世帯全体での支出は昨年と比較して、「増えた」または「減った」と答えた人がともに約2割、「変わらない」と答えた人が約6割と支出全体に大きな変動は見られませんでした。

Q. 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う各支出の増減（昨年同時期と比べて）について、それぞれお答えください



Q. 世帯での支出は昨年同時期と比較して増減はありますか

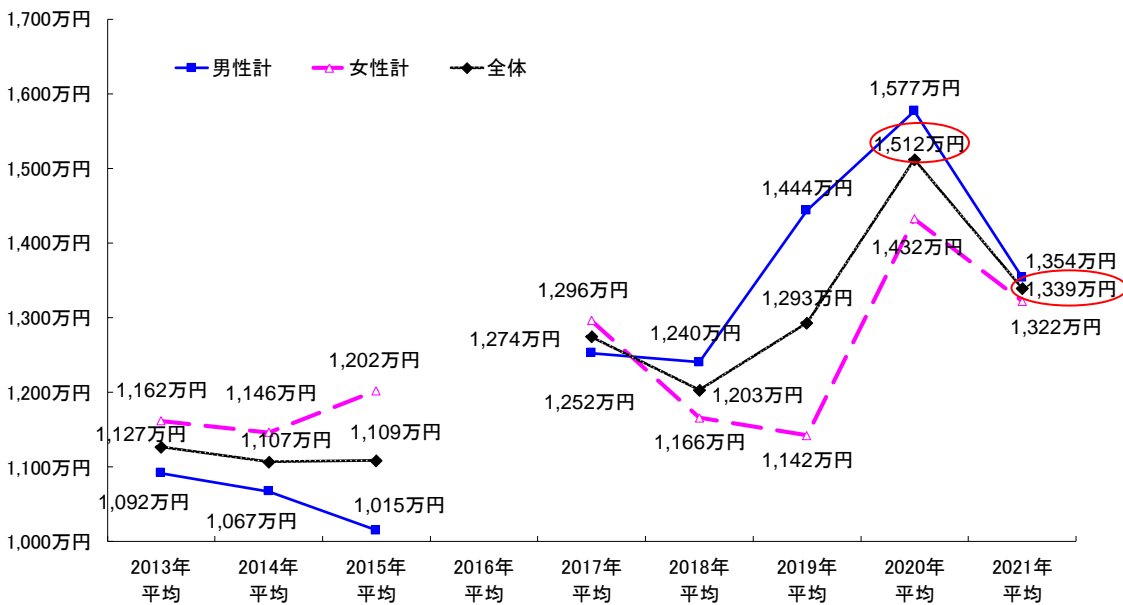


(3)「貯蓄」について

**年々増加傾向にあった貯蓄額が3年ぶりに減少！
減少額は173万円！**

- 世帯の貯蓄額と貯蓄の目的について聞いてみました。
- 今年の貯蓄額は1,339万円となり、昨年の1,512万円から173万円減少しました。年々増加傾向にあった貯蓄額が、3年ぶりに減少となりました。
- 職業別では、貯蓄が減ったと回答した人は、既に年収ダウンの影響が大きかった「自営業・自由業」(36.8%)、「パート・アルバイト」(28.4%)が上位を占める結果となりました。
- 貯蓄の目的は、「将来のため」(66.1%)がトップとなり、次いで「いざという時のため」(55.5%)と続く結果となりました。
- 「人生100年時代」をむかえ、老後資金の備えとして貯蓄額は年々増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う年収減少の影響により、貯蓄を取り崩さなくてはならなかったのかもしれない。

【過去8年間の貯蓄額（平均）の推移】

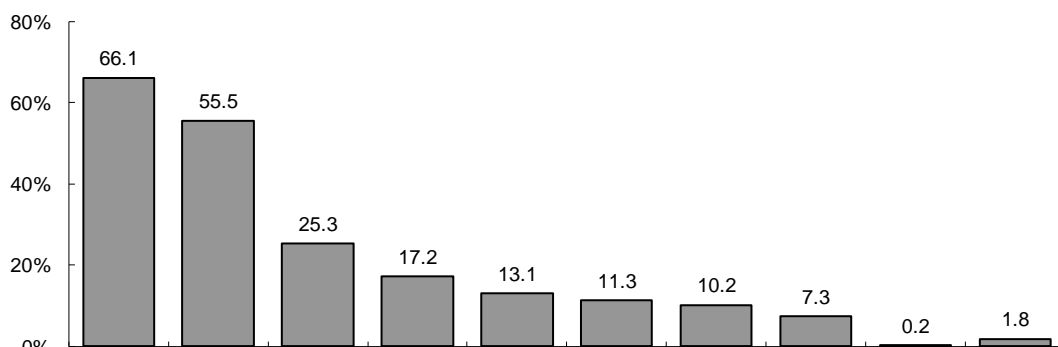


※2016年は調査なし。2015年以前はいい夫婦の日アンケート、2017年以降は家計に関するアンケートより

Q. 世帯での貯蓄はいくらありますか（金額回答）

	増えた	減った	変わらない
	(%)	(%)	(%)
会社員	31.7	23.2	45.1
会社役員・経営者	39.1	17.4	43.5
公務員	26.8	12.2	61.0
自営業・自由業	21.1	36.8	42.1
パート・アルバイト	14.7	28.4	56.8
専業主婦(主夫)	20.5	23.2	56.3
無職	9.7	31.0	59.3
その他	28.6	28.6	42.9

Q. 貯蓄の目的は何ですか（複数回答）



	回答者数 (人)	将来のため (%)	いざというときのため (%)	子どもの教育資金のため (%)	家族旅行のため (%)	コロナ禍で先行きが不透明なため (%)	マイホーム購入のため (%)	マイカー購入のため (%)	趣味のため (%)	友人のため (%)	その他 (%)
全体	991	66.1	55.5	25.3	17.2	13.1	11.3	10.2	7.3	0.2	1.8
男性計	554	65.3	52.2	24.2	17.1	12.8	11.6	9.7	8.5	0.2	1.4
男性20代	99	38.4	42.4	36.4	23.2	17.2	37.4	17.2	10.1	1.0	1.0
男性30代	92	56.5	46.7	45.7	16.3	14.1	20.7	14.1	8.7	-	-
男性40代	82	62.2	52.4	39.0	8.5	15.9	6.1	8.5	3.7	-	-
男性50代	85	80.0	49.4	23.5	8.2	10.6	-	3.5	4.7	-	2.4
男性60代	106	80.2	50.9	2.8	21.7	10.4	2.8	7.5	12.3	-	3.8
男性70代	90	75.6	72.2	1.1	22.2	8.9	-	6.7	10.0	-	1.1
女性計	437	67.0	59.7	26.8	17.2	13.5	11.0	10.8	5.7	0.2	2.3
女性20代	70	55.7	57.1	42.9	17.1	22.9	25.7	15.7	7.1	-	1.4
女性30代	82	63.4	57.3	48.8	28.0	17.1	22.0	15.9	11.0	-	1.2
女性40代	75	70.7	46.7	48.0	12.0	10.7	5.3	12.0	1.3	-	-
女性50代	74	75.7	60.8	13.5	10.8	14.9	6.8	10.8	5.4	-	2.7
女性60代	68	73.5	66.2	1.5	17.6	10.3	2.9	4.4	5.9	1.5	-
女性70代	68	63.2	72.1	-	16.2	4.4	1.5	4.4	2.9	-	8.8

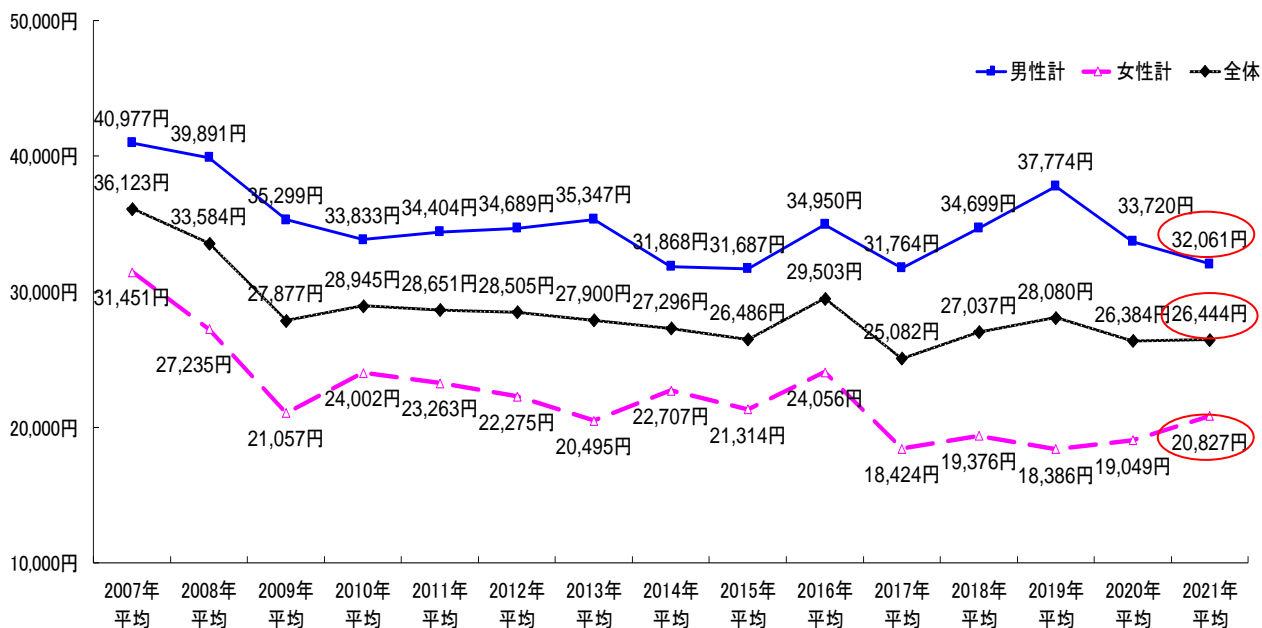
(4)「おこづかい」について

**コロナ禍が夫のおこづかいを直撃！？
年収ダウンや外食機会の減少は、まずは夫のおこづかいに響く！？**

- 夫婦のおこづかいの金額について聞いてみました。
- 全体の月平均額は、ほぼ変わらず横ばいですが、夫婦別にみると、妻のおこづかいは19,049円から20,827円と約1,800円増加するものの、夫のおこづかいは33,720円から32,061円と約1,700円減少しました。
- 夫のおこづかいは昨年約4,000円減少し、今年はさらに約1,700円減少しました。
- 年収ダウンの影響や、外食機会が減ったことで、まずは夫のおこづかいが下げられるのでしょうか！？

Q. 1ヵ月のおこづかい金額はいくらですか ※20代～50代調べ

【おこづかい金額の推移】



【おこづかい金額の詳細】

	2019年平均	2020年平均	2021年平均	前年差
全体	28,080円	26,384円	26,444円	60円
男性計	37,774円	33,720円	32,061円	-1,658円
女性計	18,386円	19,049円	20,827円	1,778円

～フェロー チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



今回の調査では、コロナ禍での厳しい家計の状況が浮き彫りになりました。まず、年収が「今現在減少した」、「将来減少する（と感じる）」と答えた人は全体の約4割に上っています。「感じる」だけでも財布の紐が固くなるのは避けられず、景気への悪影響が懸念されます。また、経済環境悪化の影響を受けやすい自営業・自由業、雇用調整の対象となりやすいパート・アルバイトがしわ寄せを受けている様子も明確になりました。

所得が減るなかで、世帯全体の支出額に変化はないとの回答はやや意外ですが、食費や水道光熱費等の身近な費用の増加が、そう感じさせた部分があったかもしれません。外食代や交通費、被服費、美容費に関しては「減った」との回答が大きく上回っており、家計が不要不急の支出を絞った姿が現れています。また、貯蓄額の大幅減少は、支出以上に所得が減少したことを示しており、ここにも家計の苦境が現れています。こうしたなか、お父さんのおこづかいが減らされたのも仕方ないと言えるでしょう。

2. GWについて

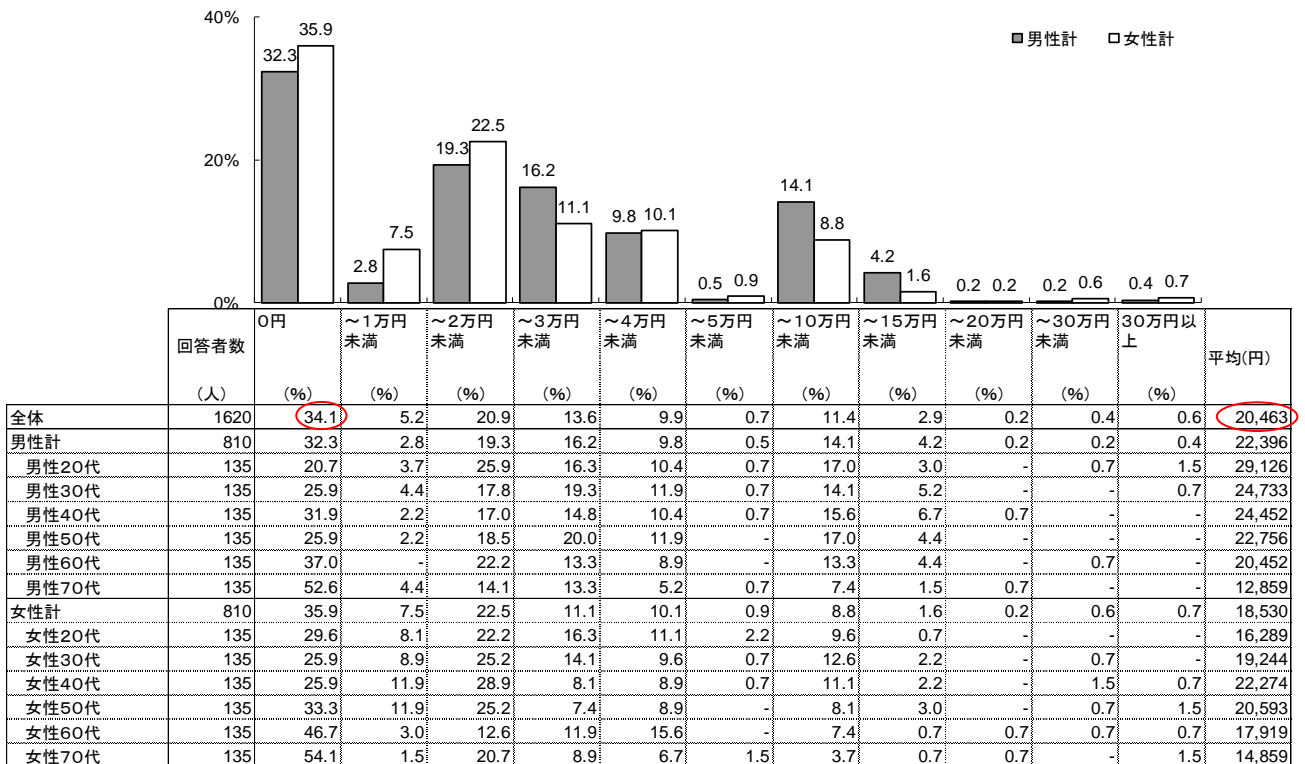
今年も“巣ごもりGW”に！？ GWの予算は2年連続減少！

- 今年のGWの過ごし方や予算について聞いてみました。
- 今年のGWの過ごし方は、「自宅で過ごす」（64.1％）と「未定」（20.1％）の合計が昨年に引き続き8割以上になるなど、今年も“巣ごもりGW”の傾向となっています。
- 年収ダウンの影響もあってか、今年のGWの予算は、緊急事態宣言中の昨年よりも「減らす」と答えた人が約3割（27.5％）。—昨年47,249円、昨年23,010円、今年は20,463円と、今年の予算は、大型連休（10連休）だった—昨年の半分以下となった昨年から、さらに約2,500円減少しました。

Q. 今年のGWで予算の変更はありますか

	GWの予算を増やす (%)	GW予算を減らす (%)	変わらない (%)
全体	6.2	27.5	66.3
男性計	7.3	28.1	64.6
女性計	5.1	26.9	68.0

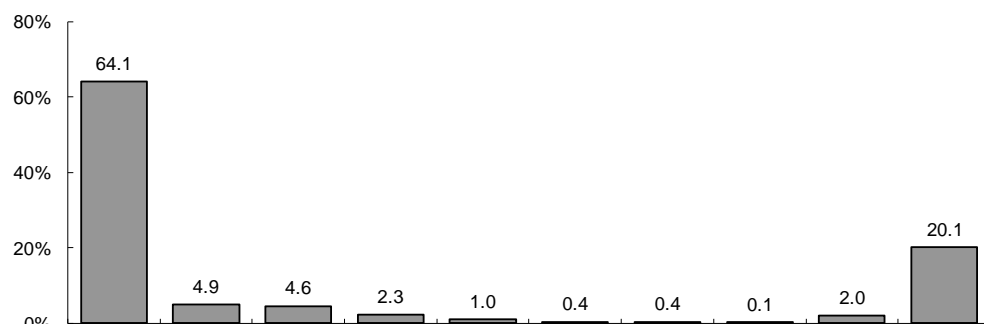
Q. 今年のGWにいくらくらいお金を使う予定ですか



Q. あなたは今年のGWにいくらくらいお金を使う予定ですか

	2019年 平均	2020年 平均	2021年 平均	(参考) 2019年比
全体	47,249円	23,010円	20,463円	43.3%
男性計	58,051円	27,421円	22,396円	38.5%
女性計	36,446円	18,600円	18,530円	50.8%

Q. 今年のGWはどのようにして過ごしますか



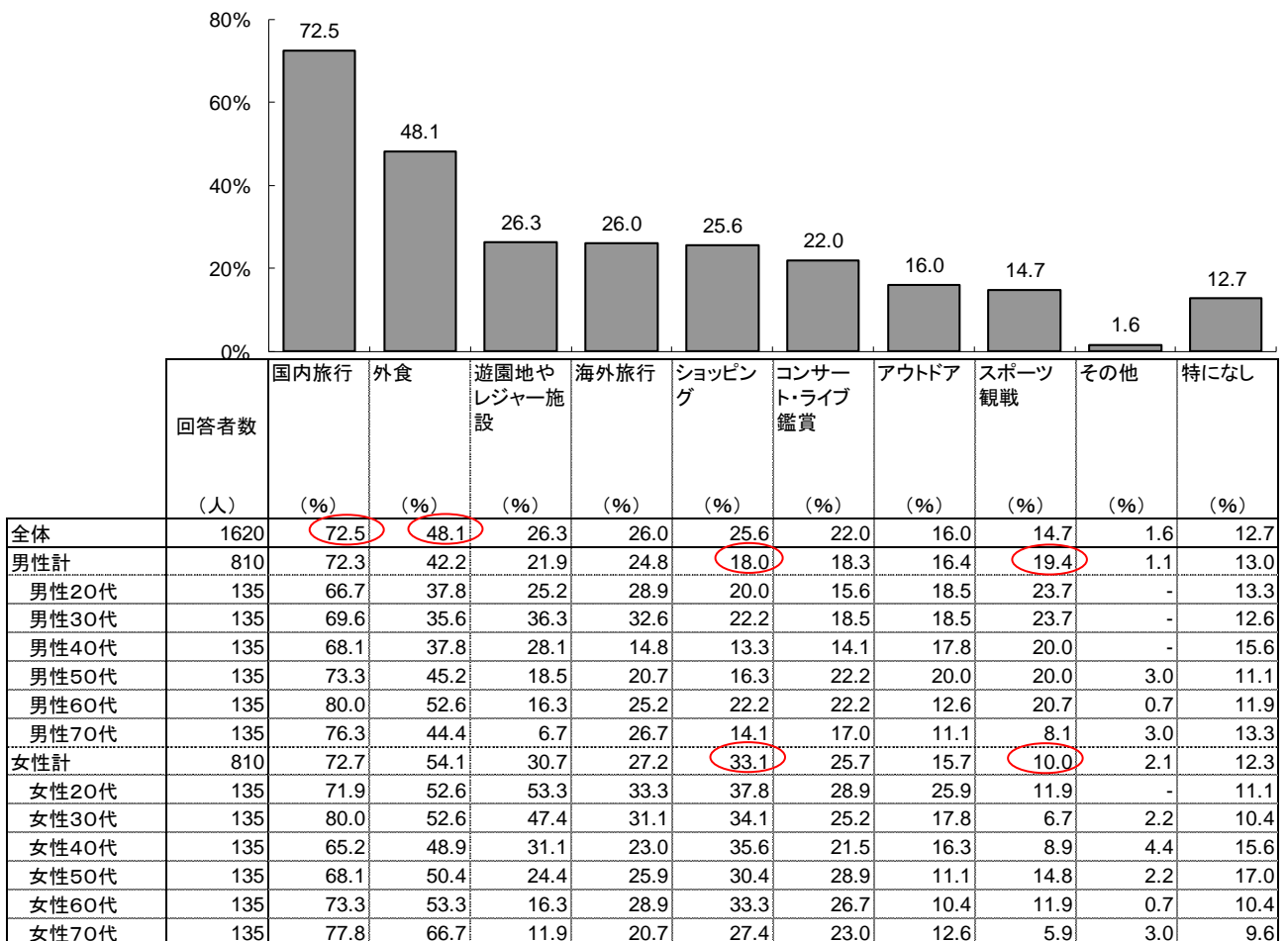
	回答者数 (人)	自宅で過ごす または 未定 (%)	自宅で過 ごす (%)	国内旅行 (%)	帰省 (%)	アウトドア (%)	遊園地・ テーマ パーク (%)	海外旅行 (%)	スポーツ観 戦 (%)	ボランティ ア (%)	その他 (%)	未定 (%)
全体	1620	84.2	64.1	4.9	4.6	2.3	1.0	0.4	0.4	0.1	2.0	20.1
男性計	810	81.2	60.1	5.7	4.6	3.0	1.5	0.7	0.5	0.2	2.6	21.1
男性20代	135	68.1	49.6	11.1	8.9	2.2	1.5	4.4	-	1.5	2.2	18.5
男性30代	135	74.1	52.6	8.9	6.7	1.5	4.4	-	1.5	-	3.0	21.5
男性40代	135	80.0	60.0	7.4	4.4	3.7	1.5	-	-	-	3.0	20.0
男性50代	135	80.7	54.8	3.0	5.2	5.2	1.5	-	-	-	4.4	25.9
男性60代	135	90.4	70.4	3.0	0.7	3.0	-	-	0.7	-	2.2	20.0
男性70代	135	94.0	73.3	0.7	1.5	2.2	-	-	0.7	-	0.7	20.7
女性計	810	87.2	68.1	4.1	4.6	1.6	0.6	0.1	0.2	-	1.5	19.1
女性20代	135	78.5	61.5	4.4	11.1	2.2	2.2	-	-	-	1.5	17.0
女性30代	135	79.3	55.6	4.4	10.4	3.0	0.7	0.7	0.7	-	0.7	23.7
女性40代	135	84.5	65.2	8.1	3.7	3.0	-	-	-	-	0.7	19.3
女性50代	135	90.4	70.4	3.0	0.7	0.7	-	-	0.7	-	4.4	20.0
女性60代	135	94.0	73.3	3.0	0.7	-	0.7	-	-	-	1.5	20.7
女性70代	135	97.1	83.0	1.5	0.7	0.7	-	-	-	-	-	14.1

3. コロナ収束後にやりたいことについて

**コロナ収束後、まずやりたいことは「国内旅行」「外食」！
国内旅行を希望する人は7割以上！**

- コロナ収束後にやりたいことについて聞いてみました。
- 「国内旅行」(72.5%)、「外食」(48.1%)が、年代・性別を問わず上位となりました。
- コロナ禍で我慢してきた旅行や知人・友人との会食などを多くの人が待ち望んでいる結果に！
- 男女別では、「スポーツ観戦」(男性：19.4%⇔女性：10.0%)と、男性は野球やサッカーなどスポーツ観戦で盛り上がりたようです。一方で、「外食」(男性：42.2%⇔女性：54.1%)や「ショッピング」(男性：18.0%⇔女性：33.1%)と、女性の方がより身近なことをして楽しみたいようです。

Q. コロナ禍の収束後にやりたいことは何ですか（複数回答）

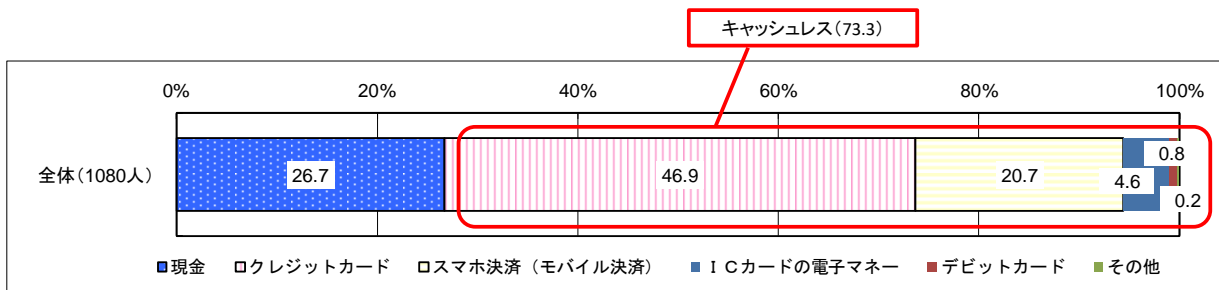


4. キャッシュレス決済の浸透について

**コロナ禍でキャッシュレス決済が拡大！
「ネットショッピングにて必要」と感じた人が昨年と比べて約2.5倍！**

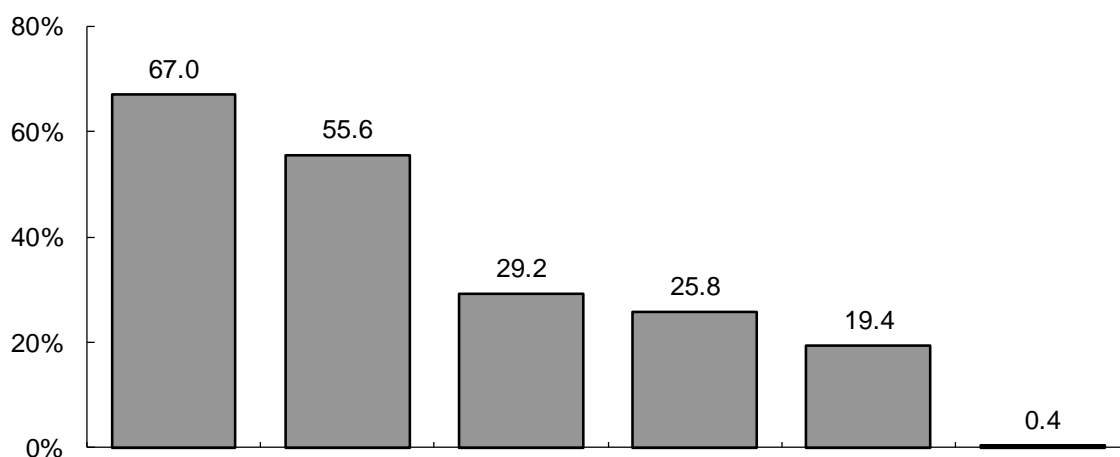
- 日常で最も利用する決済手段について聞いてみました。
- 最も多く利用する決済手段について、約4人に3人が「キャッシュレス(クレジットカード・電子マネー等)」と回答。一昨年は52.5%、昨年は69.7%、今年は73.3%と年々増加傾向となっています。
- 決済手段が「キャッシュレス」と答えた人の理由は、「ポイントがつく等、経済的メリットがあるため」(67.0%)が最も多く、次いで「現金を持ち歩く必要がなく、利便性が高いので」(55.6%)、「ネットショッピングにおいて必要なため」(29.2%)が多い結果となりました。
- さらに、「ネットショッピングにて必要なため」と答えた人(29.2%)は昨年(11.3%)の約2.5倍、「キャッシュレス決済に対応できる店舗が増えたため」と答えた人(25.8%)は昨年(5.3%)の約5倍になりました。
- コロナ禍の影響によるネットショッピングやデリバリーサービス等の“巣ごもり”消費の拡大が、「キャッシュレス」利用の拡大につながったのかもしれませんが。

Q. あなたが最も多く利用する支払い手段は何ですか ※20代～50代調べ



	現金	キャッシュレス					その他
	(%)	(%)	クレジットカード (%)	スマホ決済(モバイル決済) (%)	ICカードの電子マネー (%)	デビットカード (%)	
全体	26.7	73.3	46.9	20.7	4.6	0.8	0.2
男性計	23.9	76.1	46.9	24.6	3.7	0.7	0.2
女性計	29.4	70.6	47.0	16.9	5.6	0.9	0.2

【決済手段を「キャッシュレス」と答えた人の理由】



	ポイントが付く等、経済的メリットがあるため (%)	現金を持ち歩く必要がなく、利便性が高いので (%)	ネットショッピングにおいて必要なため (%)	キャッシュレス決済に対応できる店舗が増えたため (%)	コロナ感染予防対策のため (%)	その他 (%)
全体	67.0	55.6	29.2	25.8	19.4	0.4
男性計	62.7	53.9	27.3	23.9	20.2	-
男性20代	48.5	57.6	29.3	22.2	28.3	-
男性30代	64.0	45.9	25.2	24.3	18.9	-
男性40代	64.2	55.8	18.9	22.1	20.0	-
男性50代	73.3	57.1	35.2	26.7	14.3	-
女性計	71.6	57.4	31.3	27.9	18.4	0.8
女性20代	61.4	55.7	25.0	26.1	20.5	-
女性30代	70.0	47.0	24.0	22.0	15.0	1.0
女性40代	74.7	60.0	35.8	27.4	12.6	1.1
女性50代	79.4	67.0	40.2	36.1	25.8	1.0

【キャッシュレス決済をする理由】

		ポイントが付く等、経済的メリットがあるため (%)	現金を持ち歩く必要がなく、利便性が高いので (%)	ネットショッピングにおいて必要なため (%)	キャッシュレス決済に対応できる店舗が増えたため (%)
今年	(%)	67.0	55.6	29.2	25.8
昨年	(%)	57.9	25.1	11.3	5.3
前年比	(倍)	1.15	2.21	2.58	4.86

～フェロー チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



日本では、偽札の少なさ、ATMの充実、超低金利等の理由で現金保有の利便性が大きく、諸外国に比しキャッシュレス化の動きが鈍いことが常々指摘されてきました。しかし、当アンケートを見る限り、潮目が変わりつつあるようです。最も多く利用する決済手段について、「キャッシュレス(クレジットカード・電子マネー等)」と答えた人の割合が、一昨年は52.5%、昨年は69.7%、今年は73.3%と、ここ2年で飛躍的に伸びている姿が示されました。

コロナ禍で外出の機会が減り、「巣ごもり消費」が拡大するなかで、キャッシュレス決済が増えるのは自然な流れです。ただ、実際に利用するなかで、ポイント還元や、現金を持ち歩く必要がないなど、改めてキャッシュレス決済の利点に気づく人が増えたことが、普及に拍車をかけた可能性があります。

また、キャッシュレス決済をする理由としては、「対応できる店舗が増えた」との比率が昨年の4.86倍に増えています。インフラ整備で使い勝手が良くなればまだまだ増える可能性を示しており、この点、異なる決済システムの林立等、解決すべき課題は残っています。